

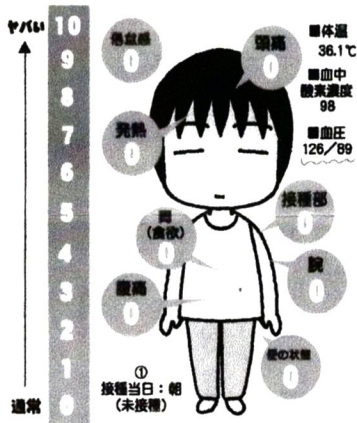


1市3町人口、ごみ量など11年間の変化(事業年報より抜粋)

Table with 4 columns: Item, 2009(H21)年度, 2020(R2)年度, and a percentage column. Rows include household numbers, population, waste volume, recycling, and electricity usage.

たんぽぽだより1枚目裏面記事の参考資料(黒田みち「ごみ議会・一般質問資料」)
2009年と2020年を比較すると、この11年で、人口と1日あたり可燃ごみ量(ト)が、93.4%に減り、年間ごみ焼却量(ト)が90.9%に減っていることがわかります。現有炉(235ト)のまま20年間稼働(延命)点検補修だけで238億円(で良いのでしょうか。)

構成市町の人口割合の変化 川西市 70% → 72% 豊能町 10% → 9%
猪名川町 14% → 14% 能勢町 6% → 5%



川西市で実施されているワクチン接種において救護室の利用はあるものの、重篤化されている例はないと12月23日開催の市議会・ワクチン接種調査委員会では報告を受けています。

5類になれば解決できるのか?そんなことはありません。結局、この3年間、病院やベッドが減らされ続けているので、安心の医療確保にはなっておらず、川西でも同じです。今は、必要な方がワクチン接種、検査、受診・治療が公費負担で行える安心がありません。5類になり自己負担になれば、受診抑制で重症化、副反応や後遺症への対応が遅れるのではないかと、感染が拡大するのでは、と危惧されるのは当然のことです。

ただし、医療機関からコロナの疑いでPMDA(国・独立行政法人)に40件の報告が入っており対応中(まだ因果関係はわかりませんが、5人の方が死亡)だそうです。

マスクの着用は従来から強制ではありませんから、マスク云々が問題ではなく、検査やワクチン接種、受診・治療が保障されるのかが大きな課題です。下表は、川西市の応急診療所(東畦野)の受診者数ですが、発熱外来を実施していないため発熱患者が受診できていません。北部医療の確保(平日の内・小児科)を行うと言ってきたのは川西市です。必要に応じて受診できる医療体制の確保に向けて、声をあげ行動しましょう。

また、市が窓口になっている救済制度の申請は14件になっているとのこと。

医療の確保を

北部応急診療所の受診者数について

変異株の出現やワクチンの副反応、陽性後の後遺症など、まだまだ予断を許さない状況下、当事者に寄り添った対応が必要ですが、国は、新型コロナウイルス感染症をインフルエンザと同じ5類に引き下げようとしています。

Table showing patient numbers at the Northern Emergency Clinic from September to January, categorized by department (Internal, Pediatrics, Total).

今も感染は拡大、発熱時に病院で受診を断られる、熱がないと診てもらえない、一体どうしろというのか、と憤りや不満・不安の声が聴こえてくる現状があります。

大軍拡も大増税もNO! 賃金上げて、消費税下げて 暮らし守ろう!
新しい全国統一署名に取り組んでいます。雪の舞うとっても寒い日でしたが、がんばってくださいと若い方がお声をかけてくださったり、通行中の方が少ない時間帯でしたが、30分で19名の方の署名を預かりました。引き続き、よろしく お願いします。



女性後援会で「大軍拡・大増税 NO!」



賃金アップ!消費税下げろ!地域の皆さんと